

# 2021年度以前入学生対象 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

## 1. 編成の方針

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、スポーツ健康学科では、スポーツを通して、人が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るための支援に必要な知識及び技能を修得し、加えて「人と社会」の関係を科学の視点から探究することにより多角的にスポーツにかかわる人材を育成することを目的としている。具体的には、「地域スポーツコース」「健康運動コース」の2コースを設置し、栄養学や医学等、スポーツ健康学の隣接分野を含む学際的・総合的な教育を行う。それぞれの学問領域を深く探究できるような学習活動を行わせるとともに、教養と人間性を重視しつつ、基礎的な学習技術、社会人として必要となる実践力、多角的に考える力の形成にも重点を置いたカリキュラム編成としている。

## 2. カリキュラムの構成

1)豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、共通教育科目として、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、外国語コミュニケーション能力を育成する「外国語科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。また社会人に必要な知識やスキルを身につけて、自身にあった職業選択につなげていく「キャリア教育科目」も配置している。

2)専門教育科目においては、スポーツ・健康と栄養に関する「基幹科目」「発展科目」「実技系科目」の3区分を体系的に配置する。これらの科目は、「必修科目」と「選択必修科目」、および「選択科目」からなり、「必修科目」は、「スポーツ・健康と栄養」に関する基盤的な学びを形成する講義形式の授業と4年間を通して少人数制で行う演習形式の授業（ゼミナール）から構成される。「選択必修科目」は、各コースの入門的な科目群と社会人基礎力を形成する科目群から構成される。「選択科目」は、専攻するコースの専門知識を深め、関連する資格や免許の取得をめざす「コース選択科目」とコースを越えて多角的な知識の獲得をめざす「その他の選択科目」から構成される。

## 3. 教育内容・方法

### 1)報恩感謝の心と幅広い教養

1. 互いの「いのち」を尊び、その恩をたずね、すべてのものに感謝する心を持てる学生を育てるために、「宗教学」を開講し、「建学の精神」の意識化を促す。ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に資する学生の人格形成を支援する。

II.幅広い学びを保障し、多角的な視点を身につけられる教養教育を実践するため、「外国語科目」を必修として設定するとともに、人文・社会・自然科学などを含む多様な学問領域を学べるように科目を設置する。

## 2)専門的な知識・技能

I.「地域スポーツ」「健康運動」の2コースを設定し、専門基礎教育から専門教育へ段階的に教育を展開することで専門的知識および技能を確実に修得できるようにする。

II.「スポーツ・健康と栄養」に関する課題の複雑さに対応するために、「地域スポーツ」「健康運動」の2コースの基盤となっている学問領域の連携を進め、学際的な学びを実現できるようにする。

## 3)問題解決能力

I.「人と社会」に関する情報を的確に収集・分析することで問題を発見し、その解決をめざす力を獲得するための科目を配置する。

II.現代社会における様々なスポーツ課題を多角的に考察し、社会の発展に寄与する人材を育成するための科目を配置する。

## 4)自律的・主体的・共感的態度

I.大学の主体的な学習に必要なスキルと自律的な態度を育成するために、学部共通の初年次教育プログラムを設ける。

II.ゼミナールを中心として、少人数編成の科目を初年次から最終学年まで縦断的に設置することにより、自ら課題を発見・探究する能力や表現力などの汎用的能力を修得させることから、多様な人々に対する共感的態度を身につけていることまで、全学年を通じて段階的・継続的に指導する。

## 5)実践力

I.学生が自己の特性を知り、自身にあった職業選択を可能とするとともに、社会人に必要な知識やスキルを身につけるためにキャリア教育を実施する。

II.スポーツを通して、人が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るための支援に必要な、幅広い知識と様々なスポーツの実践的指導力を修得できるようにする。

## 4. 評価の方法

受講態度や発表、課題など各回の授業で設定された学習の到達度とともに、定期試験・レポート等によって総合的な学習の到達度を教員が評価し、それを学生が確認する。最終的に、卒業研究において、知識や技能を活用する能力を総合的に評価する。